

部会名	令和 2 年度 第 2 回 障がい当事者部会		
日 時	令和 2 年 1 2 月 3 日 (木) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0		
場 所	板橋区役所 北館 9 階 大会議室 A		
参加者	委員 8 名、事務局 4 名		
会議の公開 (傍聴)	公開 (傍聴できる)	傍聴者数	1 名
<p>○ 協議事項</p> <p>(1) 障がい福祉計画等の素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より報告を行った。 <p>(2) 地域生活支援拠点等の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より報告を行った。 <p>障がい福祉計画等及び地域生活支援拠点等の整備に関する質問、委員間での確認事項について (主な意見、質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の素案の中の 74 ページで、必須事業として地域生活支援事業の意思疎通支援事業が位置づけられているが、失語症者向け意思疎通支援者に関する記載がない。令和 5 年度までは、失語症者向け意思疎通支援事業は運用されないということか。 <p>→失語症者向け意思疎通支援事業については、計画期間中に一定の検討をしながら設定を進める必要があると考えている。区として明確に方向性を示す段階に至っていないが、この計画期間中にそのようなことも含めて、施策の充実を図っていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の相談事業が計画の中に入っているが、今までに難病患者はどの程度相談があるのか。また、その相談の中身はどのようなものか。計画の素案の中の 19 ページ 施策 3 特性に応じた支援の充実の中に、「20 難病患者に対する支援」があるが、具体的にどういった支援になるのか。難病患者に対する支援に力を入れてほしい。 <p>→国からも示されているが、断らない相談が求められている。難病の方に対する相談がどの程度あったかという数字は今手元に持っていないが、地域生活支援拠点等を含め、困りごとがあった際にはそちらにご相談頂き、特性に応じた専門的な対応が必要なものについては、適切な機関につなぐコーディネート機能を含め、基幹相談支援センターを中心として充実を図ることで、皆様の困りごとに適切に対応できる体制を構築していきたいと考えている。難病患者に対する支援については、32 ページに予防対策課の事業を位置づけているが、現状取組を掲載している中では一項目となっている。引き続き国や東京都への働きかけ等も含めて行っていくという思いを持っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の素案の中の 69 ページ、⑦地域活動支援センター機能強化事業について、Ⅲ型の説明がない。Ⅲ型とはどういうものか。また令和 5 年度までは見込量が 0 となっているが、将来的に令和 6 年度から設置の意向があるのか。 <p>→地域活動支援センター機能強化事業について、計画の素案の中でⅠ型、Ⅱ型の説明をさせて頂いている所である。Ⅲ型については、5 年を超えて事業を継続していく中で、事業者の方で位置づけをすればⅢ型という設定にできる。こちらは区の方で直接的に整備するというわけではなく、事業所の参入を図るという方向性を持っている。Ⅲ型はそのような見込みがないため、0 にしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者でⅢ型の地域活動支援センターをやろうとする所が出てこない一番の理由は、採算が取 			

れないこと。ニーズの多いサービスなので、できれば公営でやって頂きたいと考えるが、いかがか。
→地域活動支援センター事業については、民間の事業所がやっていく中で、支援等については特段区が行うものではないが、運営に関して厳しいという事情は捉えているので、区に登録頂いている団体については補助金を支給している現状にある。障がい福祉センターが関わっているものの中で、Ⅲ型が導入できるか、可能性の検討はしていきたい。

- ・計画の素案の中の7ページで、精神障がいの手帳取得者と自立支援医療申請数の推移について、目盛を同じ基準でグラフ化してもらいたいと考えるが、いかがか。

→こちらについては、精神障がいの手帳所持者と自立支援医療申請数とが分かれているということをお示しさせて頂く中で、こういう表現をさせていただいた。ご意見踏まえて今後検討させて頂ければと思っている。

- ・手帳を持っていない障がい者が相当数いるということを示すという意味でも、実態が分かるような書き方にしてほしい。また、見込数や増加の背景についても記載した方がよいのではないか。

- ・計画の素案の中の53ページに(2)精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築についての記載がある。国からの指針で、精神病床の1年以上の入院患者数を国基準で10.6万人～12.3万人に減らす。また、退院率を3か月後69%以上、6か月後に86%以上、1年後に92%以上にするというものが示されている。その数字を板橋区にあてはめた際の、具体的な数を記載する必要はないのか。

→(2)の基本指針に基づく目標値については、都道府県の障がい福祉計画で設定することとなり、23区含めて東京都の自治体の共通の立場となっている。

- ・精神障がいの入院患者は地域ごとに差がある。板橋区は精神障がいの入院病床が特別多い地域。板橋区は相当頑張らないと目標が達成できないのではないか。

→医療機関の病床数について、23区の中でも板橋区はかなりの数を持っていると捉えている。ただ、入院されている方は、必ずしも板橋区民の方だけではない。実態把握含めて、健康・医療分野等の所管にも意見を聞きながら検討が必要だと思っている。国からも精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築が求められており、第6期計画中においては包括ケアの構築を進めていくため、ニーズ把握含め、まずアセスメントを行った上で課題を抽出し、対応を検討していきたい。

- ・協議の場には、精神障がいの当事者並びに家族等も入れていただきたいと思っている。

(3) 障がい福祉計画及び地域生活支援拠点の整備についての意見

(主な意見、質問)

- ・地域生活支援拠点等の整備について、病院や地域包括支援センターとの連携が欠かせないと思っているので、面的整備の所には是非入れて頂きたい。

→障がい福祉分野においては、医療等密接に関連してくる。また、地域包括支援センターとの連携についても、地域の見守りも含めて重要な視点だと思っているため、検討を進めていきたい。

- ・地域生活支援拠点等の整備についての資料中の、「別紙 地域生活支援拠点における各機能の状況について」の①相談 めざすべき姿に、

- 1 精神障がい者の(特に統合失調症の)急性期の対応を入れてほしい。具体的に言うと、24時間、365日の対応ができる体制をめざしてもらいたい。

- 2 コーディネーターはどこかに一人、二人というのではなく、あらゆるところにいる相談を受け付

ける職員の全てが、コーディネーターたる役割を果たせるようになって頂きたい。

3 アウトリーチによる相談対応ができるようになって頂きたい。

4 そこで行う相談は、オープン・ダイアログ（開かれた対話）という手法を用いて相談に応じるようになってほしい。

5 相談に応じる際には、サポートファイルを使えるような状態でシステム化してほしい。

→精神障がい者の（特に統合失調症の）急性期の対応についても、体制を組んでいきたいと思っている。課題にも記載しているが、緊急時において24時間、365日対応可能な相談体制をとれる場の確保を含めて検討を進めている。オープン・ダイアログ、またアウトリーチの視点については、重要な部分であると思っている。発達障がい者支援センターでは、アウトリーチも含めて対応を検討している。そういった体制も一つの手法であると思うので、検討させて頂きたい。サポートファイルの話があったが、今回の計画の中にも事業として位置付けをしている。早い段階で作成した上で、活用していけるように今後調整を進めていきたいと思っている。

- ・サポートファイルについては、中途障がい、大人になっても使えるようにしてほしい。

- ・計画の素案の中の、31ページの2-1 障がい者福祉サービスの充実において、No.11 移動支援事業の実施・充実の記載があるが、視覚障がいの方達にとっては充実されている印象がない。ガイドと、ガイド時間を増やしてほしい。また、ガイドの育成講習も行なってほしい。

→ガイドの育成について、現在、区の方から移動支援事業所に直接研修を行っている実態はないが、移動支援事業所を集めて連絡会等を行っている。そういった所でお声を聞きながら、必要な支援を今後検討させて頂きたい。都で研修を行っているケースがあれば、ご案内等含めて、今後充実を図っていききたい。また支援時間の充実については、他の自治体の事例も踏まえて、今後福祉事務所等含めて、検討していきたいと考えている。

- ・精神障がいのある方を家族に持つ人達が抱える問題として、家族の高齢化が進んでいる。健常者はストレスを発散する場があるが、当事者は家庭にしかない。各家庭ほとんど、大なり小なり衝突が起きている。こういった問題は早く家族会の中でも消えていくことを期待している。

- ・課題の一つ目は、一人暮らしの聴覚障がいの高齢者の方達が、毎年何人か亡くなっているという話を聞いており、そちらをどうすればよいかということ。板橋区聴覚障害者協会の会員でない、聴覚障がいの高齢者の方達は把握ができない。二つ目は、盲ろう者や、発達障がいや知的障がい聞こえない方など、重複障がいを持つ方達が板橋区内に50人以上おり、施設入所ができない方のほとんどは家に引きこもっている。重複障がい者を受け入れられる施設がほしい。そこには手話のできるスタッフが必要になる。また、ろう重複の障がいの方が相談できる場所を設けて頂けるとありがたい。

→東京聴覚障害者支援センターという聴覚障がいのある方を中心に受け入れる入所施設があるが、定員数がある。今後の需要増加をどの程度受け止められるのか、センター中心に様々な対応している所である。ご指摘頂いた視点も踏まえて対応を検討させて頂きたい。また、把握ができていないろうの高齢者の方達が毎年亡くなっているということについて、様々な障がいのある方に同じような課題があり、そういった方々をどう適切に把握し支援に繋げるかということは区の課題だと認識している。まず、把握の方法が非常に重要だと思うので、皆様方のご協力も頂き、研究し取り組みを検討していく。

- ・板橋区難病団体連絡会が板橋区長に毎年要望していることがある。一つ目は難病センターを作って

ほしいというもの。もう一つは難病法改正による難病対策地域協議会に難病団体の代表者をに入れて頂きたいというもの。障がい者にとっては福祉課も予防対策課もないので、横のつながりを持ってやって頂きたい。

→ご意見頂いた通り、組織横断的な対応の必要性については、様々な所で言われており、区としてもそういう対応を図る必要があると思っている。難病については、中心として予防対策課等で関わっているが、障がい所管課としても、課題があると捉えており、きちんと部署間の連携をとり、対応について検討していきたいと考えている。

・地域生活支援拠点等の整備についての資料3ページ目の、障がい当事者の親の高齢化や、親亡き後を見据えた体験の機会・場について、発達障がい当事者が一人暮らしの体験ができることは非常に大事。生活寮やグループホームしかないということだけでなく、一人暮らしの体験の場の体制確立も必要である。

・計画の素案の中の、42ページのNo.75 障がい者入所施設の枠の確保の中で、地域移行を促進することで...との記載がある。おそらく精神障がいの方メインの対応だと思うが、知的障がいのことについても記載してほしい。また、58ページの(2) 日中活動系サービスの①生活介護の図において、令和2年度の実績935人/月と比べて、令和5年度の見込量が1,010人/月と大幅に増えている。61ページの⑦就労継続支援(B型)の図においても、令和2年度の実績873人/月と比べて、令和5年度の見込量が963人/月で、今の通所施設の量では足りない。この部分は増やして頂くよう文言を加えて頂きたい。重度知的障がいのグループホームも作ってほしいので、計画に入れてほしい。区立福祉園の民営化が5年後に迫っているが、重度障がい者の人達があふれてしまうのが想定される。令和6年度以降も見据えた計画を考えて頂きたい。

→42ページのNo.75 障がい者入所施設の枠の確保について、表現を検討させて頂きたいと思っている。生活介護の施設整備に関しては、各特別支援学校の卒業生の推移等も見極めつつ、供給量を設定していく。見込量については、ココロネ板橋や、板橋キャンパスの将来的な需要を踏まえた設定数という中で、施設整備をする方向にある。令和6年度以降を考えると、不足する時期が来ると思うので、区としてどういう対応ができるか検討の上、取組を進める必要があると捉えている。コロナ禍における介護職の方々の確保の必要性についても、区としても何か出来ることをやっていかないといけないという認識を持っている。色々お知恵を頂きながら考えて参りたい。

○ その他

障がい者交流会について

(事務局)

・障がい者週間記念行事について、毎年12月の第一週の土曜日、日曜日にグリーンホールを会場として執り行わせて頂いていた。今年度はコロナ禍を受けて、例年のやり方に関しては中止という判断をした。ただ、この機会を通じて様々な普及啓発等を行っていききたいということで、区役所本庁の一階のスペースを活用し、周知啓発を含めたパネル展等を開催させて頂く方向になっている。来年、障がい者週間記念行事がコロナ禍でどうなるかも見据え、どういう形がいいのか等を含めて、皆様方の中でご協議頂いて、一定の方向性等も含めて一緒に考えさせて頂きたいと考えている。

(主な意見、質問)

・目が悪いと、例えば人に会っても声をかけられないとわからない状態なので、交流会は行って頂きたい。また、障がい者週間記念行事などで行って頂ければ、団体の定例会の際に周知等が出来る。是非早めにお知らせ頂きたい。

・交流会について、来年度、実施の方向で進んでほしい。コロナの状況を見て、まずいと思えばそのときの判断も必要だと思う。

・前回の当事者部会で時間が足りず言えなかったが、実際に板橋区で交流会を行った。障がい者が集まり、図書館主催で図書館について意見交換会を行う催しであった。出来る所からはじめてもいいかなと思う。

・今のような、この指とまれという集まりを行政を通さずにすぐにでも行えばいいと思う。行政が絡むということは、区民が平等に参加できるということなので、分けて考えた方がよいのではないかな。

・障がい者という立場でやりづらさというものがある。実務が障がい者にとっては負担なので、その辺はサポートをして頂いた上で、やって頂きたいと思っている。

(事務局)

・今一度、障がい者交流会を行う意義や目的などを共有し、テーマ等を皆様で協議頂く中で、そのためにどういうやり方があるか考えていく必要があると思う。ご提案の思いがどういったお気持ちなのかをご提示頂く中で、皆様方の考えをすり合わせていかないといけないと感じる。その辺、ご説明いただいたほうが良いと思うが、いかがか。

・去年行われた東京都主催の自立支援協議会交流会に出席した際、テーマが「当事者の声をいかにして聞くか」というものだった。その際、ある地域で障がい者の交流会をやっており、素晴らしいから板橋区でもやってみてはどうか、と考えたことが交流会を提案したきっかけ。

→今年はコロナ禍で障がい者週間は規模が縮小しており、来年の障がい者週間記念行事の実施状況も踏まえ、実施する場合の早めの周知、また目的等も含めて、引き続き協議していきたい。

・11月に板橋区発達障がい者支援センター（あいポート）が開設された。開設にあたっては、多くの区の関係者の努力があった。ありがとうございます。開設セレモニーを動画配信で行うこととなり、坂本区長の挨拶に続き、内山登紀夫先生の講演が行われた。内山先生は発達障がいの第一人者。講演のモニターを一部見たが、大変良い講演であった。是非板橋区の職員の方にも見て頂きたい。

・区内の福祉園でクラスターが起こっている状況で、他の福祉園の保護者達も本当に心配している。ある福祉園のバスにはビニールのパーテーションが各椅子にあり、それによって飛沫が飛ばなかったり、人に手を出さない等、良い状態が保たれているため、ほかの福祉園でも徹底してほしい。

→パーテーションについては、そこに飛沫が付着してそれを触るリスクがあるという話もある。何が一番良い方法なのかについて、保健所含めて感染対策を検討している所である。一定の方向が出た段階では、各福祉園の方に周知をした上での対応を図っていく。